

参加自治体からの課題一覧表

キーワード1	キーワード2	記載内容	自治体名
目標値	プロセス	課題1「地域移行の目標値とプロセスの明確化」 各市町の第5期障害福祉計画と、精神障害者の地域移行支援を推進するために必要な基盤整備量のすりあわせを行う予定であるが、県北圏域は9つの市町を管轄しており、課題も取組も多様。 国の提唱する「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」に、これまでの地区の取組をどう位置づけ発展させるのか、整理する場が必要。	栃木県(県北)
住まい		課題2「住まいの確保支援」 圏域として地域移行支援のネックとなっているこの課題にどう取り組むか。 行政と民間、行政と相談支援事業所等をつなぐ組織横断的な働きかけ(仕組みづくり)が必要。	栃木県(県北)
ピアサポーター		課題3「ピアサポートの活用」 支援者間で、ピアサポートについての認識が多様。さらなる協力者の広がり、当事者の体験や力を共有できる機会づくりが必要。	栃木県(県北)
医療機関との連携		○医療機関に対象事例の選定をお願いする中で・・・ →事例の選定基準が分からない 病院が支援が必要と考える事例と行政が支給決定する事例に解離がある 何度か事例を相談したが、中々支給決定してもらえず、面倒になった ○行政機関では・・・ →なぜ、この事例が地域移行支援が必要なのか理解できない。これまで対応困難な事例は医療機関と地域で協力して対応してこられたのではないかと 支給決定の枠組みを緩めると、どれくらいのケースが対象となるのか分からない。予算の問題も・・・ 医療機関において対象者の掘り起こしが出来ていないだけでなく、希望しても行政機関との認識に隔たりがあり、対象にしてもらえない！という課題が明らかになった。さあどうする！	栃木県(両毛)
取り組みの地域展開方法		県西プロジェクト(H29年度時限)の成果、提案等を生かした継続的取組をどう展開していけるか。	神奈川県(県西)
協議の場の設置		(県全体)保健所の既存の会議等を活用した協議の場の設置	神奈川県(県西)
関係者間の目標共有		協議の場を活用して、地域移行に取り組むことの有効性、必要性、醍醐味等を関係機関で共有できるか。	神奈川県(県西)
目標値		目標値の設定、共有	神奈川県(県西)
支援者への意欲喚起		支援者に対する地域移行に向けた意欲喚起	神奈川県(県西)
自立支援協議会		自立支援協議会との連携の在り方、協議の場で抽出された課題等が自立支援協議会につながるルート、仕組み	神奈川県(県西)
市町村での協議会		市町村における協議会の設置	神奈川県(県西)
ニューロングステイ		ニューロングステイ(新たな長期入院者に加わる者)問題に対する対策・・・等	神奈川県(県西)
介護保険との連携		介護保険、在宅医療分野との連携	神奈川県(県西)
情報発信		家族を含めた関係者への社会資源、障害福祉サービス情報の普及、周知	神奈川県(県西)
ピアサポーター		<市>■市単独で進めているピアサポーター養成にあたって、「養成講座の内容」「回数」等において協議の中で意見が割れている。 ■地域移行に係るピアサポーターの活用が未検討	神奈川県(県西)
連携の仕組み		<医療機関>(職員による課題抽出) —必要な連携・チームづくり・システムづくり— ■住宅支援、不動産関係者との連携 ■障害福祉サービスを利用していない、もしくは希望しないなどサービスの狭間にいる方への生活全般に対する支援 ■地域生活で何らかの問題を起こした知的障害のある方、多問題を抱える方の地域移行をどうチームで支援ができるか。1つの機関だけが抱えず、丸投げせず、多機関で支援を考えること。 ■成年後見まではいかないが柔軟に対応できる金銭管理システム	神奈川県(県西)
社会資源等の不足		—必要な社会資源・サービス等— ■作業所に通いやすいコミュニティバス ■病院からそのままの退院が心配な方が入所できる中間施設(ハードルを低くした条件設定) ■65歳以上でも安心して地域生活ができること、介護保険を利用しない方、生活保護、病状があっても柔軟に対応できる軽費老人ホーム等・・・	神奈川県(県西)
圏域内での連携方法		・当保健所は中核市である金沢市の北と南の地域を管轄している。障害福祉圏域は「当保健所管内+金沢市」となるため、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けては、金沢市とも連携しながら事業を進めていくことが必要となる。	石川県(中央)

キーワード1	キーワード2	記載内容	自治体名
社会資源等の不足	意識啓発等	・H29年2月に当保健所管内で連絡会を開催した際、社会資源の不足、相談員の人員不足、地域と医療機関の連携不足、居住の場の確保、患者本人の動機づけ、病院職員の知識が少ない、等の課題が挙げられたが、課題出して終わってしまったため、今年度は課題に対する解決策、各機関ができることについて検討したいと考えている。	石川県(中央)
ピアサポーター		・ピアサポーターを養成しているが、活動実績が少ない。医療機関等に向けてどのようなPRが効果的か、知りたい。	石川県(中央)
高齢化		・入院中の患者の高齢化があり、退院への意欲や地域で生活するイメージを持ちにくい現状がある。家族側も、高齢であったり患者本人への対応困難を感じ、このままの入院継続を希望し、地域移行へつなぎにくい現状がある。	石川県(南加賀)
関係者間の連携	社会資源等の不足	・医療機関からの連絡調整、相談支援事業所とのタイムリーなつながりがむずかしい。相談支援専門員のマンパワー不足、地域での社会資源(訪問看護等の訪問型サービスや福祉サービス、グループホーム等)の不足がある。	石川県(南加賀)
職員の資質向上		・対象患者が高齢者の場合、精神症状の理解や病状悪化に気づける介護支援専門員、ヘルパー等の介護事業所職員の、精神疾患への理解や対応の資質向上をはかることが求められる。	石川県(南加賀)
関係者間の連携		・精神科病院側は“長期入院患者を退院させる力”を、地域支援者側は“受け入れる力”を高めていくことが必要。そのための連携をどのように築いていくか。	石川県(南加賀)
ピアサポーター		・ピアサポーターの登録者を増やし、実際の活動や交流の場をどのように開拓し広げていくか。	石川県(南加賀)
高齢化	住まい	本人を取り巻く状況 ・本人、家族の高齢化。親亡き後の支援。家族が遠方で支援が難しいケース。家族の協力を得られないケース。病識のない人の支援。 ・本人はサービスを望まないが、支援者からは必要と思われる人への支援。 ・地域でトラブルがあると、退院後本人の望む場所での生活が困難。	石川県(能登中部)
社会資源の不足		支援関係 ・本人の生活する近くに退院後の支援機関(資源)が少ない。 そのため送迎サービスや移動手段が限られている。 公共交通機関では移動時間や費用がかかる。 ・相談支援専門員の業務量が多い。	石川県(能登中部)
介護保険との連携		その他 ・本人、家族の高齢化に伴い介護保険分野との連携体制が急がれる	石川県(能登中部)
ピアサポーター		・ピアサポーターが活動出来る場が確保されていない。ピアサポーターの養成から継続的に活動出来る場の確保に向けた体制整備について、他自治体の取り組みを知りたい。	静岡県(志太榛原)
高齢化		・高齢精神障害者の状況やその対応方法について、高齢者支援機関の理解が不足している。	静岡県(志太榛原)
地域移行利用者の活用		地域移行を利用して退院した方について、事業で講師として招きたいが了解が得られにくい。(地域移行を利用せず退院したピアサポーターは講師として参加してくれている。)	静岡県(駿東田方)
ピアサポーター		・ピアサポーターの活動が保証されていない。(活動費や活動の場など)	静岡県(駿東田方)
医療機関との連携		・病院長等への地域移行の理解が進まない。	静岡県(駿東田方)
関係者間の連携		・関係機関でも協力的なところと非協力的なところの差がある。	静岡県(駿東田方)
圏域内での連携方法		・圏域自立支援協議会専門部会「地域移行部会」は広域であり構成員が30名(精神科病院、相談支援事業所、ピアサポーター、家族会、市町、保健所、県庁、精神保健福祉センター)と多く、全ての機関からの発言が求めにくい。 ・圏域が広域であるが故、地域差(病院や事業所等の有無、交通基盤を含む生活環境等の差)から生じる問題の幅が大きい。	静岡県(駿東田方)
申請件数を増やすには		・地域移行の申請件数が少ない。(1市町につき、年1~2件。申請が無い市町もある)	静岡県(駿東田方)
高齢化		・長期入院者の高齢化に伴う退院への困難さが生じている。	静岡県(駿東田方)
情報発信		・入院中の患者に対する啓発のための媒体作成	静岡県(富士)
地域移行利用者の活用		・当事者の活動の場が少なく、当事者の力の活用が不十分	静岡県(富士)
介護保険との連携		・障害と介護との連携が不十分	静岡県(富士)
協議の場		・地域協議会における協議の場がない	静岡県(富士)
社会資源等の不足		・自立訓練、生活体験の機会がなく、あったとしても限定的 ・地域移行を推進する人材の育成が不十分 ・地域生活支援拠点の検討	静岡県(富士)
医療機関との連携		・医療機関における効果的な取り組み	静岡県(富士)
事業期間の目安		(事業の実施期間について) ○モデル障害福祉圏域である徳島市障害福祉協議会と、専門部会設置に向けた合意形成がなされておらず、今後の事業見通しが不透明 ○今後の事業スケジュールを組むに当たり、事業終了時期や予算的裏付け期間について、現時点での見通しを教えて欲しい。	徳島県(徳保)

キーワード1	キーワード2	記載内容	自治体名
630調査の活用		(新630調査の活用について) ○地域課題の分析についての活用方法が、今ひとつよく分からない。	徳島県(徳保)
ピアサポーター		(ピアカウンセラーの養成について) ○国が定める養成プログラムはないと聞いているが、地域の基盤整備の目標値等で計上する際、どのような養成課程や活動をしているピアをあげたらよいか分からない。	徳島県(徳保)
取り組みの地域展開方法		・高松圏域で実施している地域包括ケアシステム構築推進事業を他圏域に拡大していく取り組み方について。圏域により社会資源数、地域の支援事業者数も異なり、資源数などの少ない地域でどのように取り組んでいけばよいか。	香川県(高松)
医療機関との連携	ピアサポーター	・地域移行支援という障害福祉サービスについて、病院内ではごく一部の職種・関係者しか知らないため、地域移行支援への取組方がわからない関係者が多い。 ・ピアサポーターを利用する際、病院側の理解を得るのが色々難しい。 ・ピアサポーターや事業所がモチベーションを維持しながらこの事業を進めていくために、保健所がどこまで支援が出来るか、不安である。 ・病院へ事業説明を行った際、想定外の質問を受けた。(病院側の安全管理上の問題等) ・病院側にピアサポーターの活用を拒否された場合の対応について	鹿児島県(始良・伊佐)
対象者の選定方法		・地域移行支援を利用する対象者選定の際 配慮したこと	鹿児島県(始良・伊佐)
密着ADとの連携		・密着アドバイザーとの連携状況	鹿児島県(始良・伊佐)
ピアサポーター		(1)ピアサポーター養成講座に関する課題・悩み ・始良・伊佐圏域をモデル圏域として、始良保健所においてピアサポーター養成講座を実施したが、周知期間が短かったこともあり、受講者が少なかった。(20名) ・ピアサポーター活用事業を実施する地域のうち1か所は、過疎地であるため、当該地域に居住する受講者が少なかった。事業を効果的に実施するにあたっては、一定数のピアサポーターの確保が必要であり、当該地域の近隣の市町村における周知・広報が重要だと感じた。 (2)ピアサポーター活用事業に関する課題・悩み ・ピアサポーター養成講座の準備への着手時期が遅くなったことから、ピアサポーター活用事業について、保健所や精神科病院等の関係者に説明を行い、理解を得る期間が短くなり、調整不足の感が否めなかった。来年度以降は、年度当初から養成講座の準備に着手し、ピアサポーター活用事業の準備期間を十分に確保する必要があると感じた。 ・精神科病院に対しては、事前説明などにおいて、ピアサポーター活用事業の内容について、おおまかな説明は行っていたものの、実際にピアサポーターが病棟に入る段階になると、支援対象となる患者の安全管理の問題などが提起され、その調整に時間を要している。 ・ピアサポーターの採用に関しては、委託事業者に任せたが、採用後、精神科病院から、採用前に情報提供してほしいとの意見があった。個人情報を提供できるかという問題や、精神科病院の意見を採用にどの程度反映させるべきか難しいが、採用したピアサポーターと精神科病院との関係によっては、精神科病院との調整に時間を要する事態となるため、来年度以降検討すべき課題となった。	鹿児島県(県障害福祉課)
関係者間の連携		・「地域移行」に対する考え方に、病院や事業所によってまだまだばらつき(温度差)がある。 ・病院や事業所によっては、「困っていること」「悩んでいること」自体に気付いていないところもある? →もう少し会議(事業)を進めていくことで変化に期待したい! →医療・福祉・行政の連携を上手くとるコツって何かありますか?	千葉市
高齢化		・入院患者の問題が多様化、混在化している(高齢化や重複障害等)。	横浜市
自立支援協議会	社会資源等の不足	・18区全てに自立支援協議会が設置されているが、精神障害者に特化した部会がある区とない区があり、精神科病院の参加にもばらつきがある。 ・精神科病院が一部の地域に偏在しており、協議会のメンバーにも、各区偏りが出てくる。 ・本市では、18区全てに、精神障害者生活支援センターが展開されており、精神障害者支援の中核を担っている。将来的には、地域包括ケアとの連携も必要であるが、現時点では既存の資源を活用し、構築することを検討している。	横浜市
関係者間の連携		1 障害者相談支援センターが、モデル事業に参加してくれるだろうか? (マンパワーが足りないと思われるのではないだろうかと不安) ⇒対象者がいても、受けてもらえないのではと支援を依頼できないのが実態。	川崎市
関係者間の連携		2 病院と地域関係機関の顔の見える関係づくりのための相互交流ができるだろうか。 ⇒院内外プログラムの具体的内容については、今後検討予定。	川崎市
ピアサポーター		3 ピアサポーターの活躍の場を組織的にどう設定していくか。	川崎市
ピアサポーター		・ピアサポーターの養成等の取組はできておらず、事業化は難しい。予算化と人材の確保についてご助言をいただきたい。	浜松市